

未婚の男女が理想とする女性のライフコースの動向

—出生動向基本調査を用いた分析—

The Trends of Women's Ideal Life Course: The Analysis using The National Fertility Survey

中村真理子（国立社会保障・人口問題研究所）

Nakamura Mariko (National Institute of Population and Social Security Research)

nakamura-mariko@ipss.go.jp

本報告では、国立社会保障・人口問題研究所によって実施されている「出生動向基本調査」を用いて、未婚の男女が理想とする女性のライフコースの分布に対し、未婚化・晩婚化と高学歴化、非正規雇用の増加が与えた影響を検討する。対象とするのは、1987年（第9回調査）から2010年（第14回調査）の約20年の期間である。

「出生動向基本調査」では、1987年の第9回調査以降、独身の男女を対象に理想の女性のライフコースを訪ねている。この調査の結果によれば、18歳から34歳の未婚男性は女性に対して専業主婦になることを望む傾向が低下し、仕事と家庭の両立ないし再就業を望む傾向が見られるようになってきている。これに対し、未婚女性が理想とするライフコースの分布にはそれほど目立った変化・傾向は見られない。

一方で、この20年間に「18歳から34歳の未婚者」の集団の年齢構造・就業状態の構造にはいくつかの変化があった。まず、未婚化・晩婚化の進展と若年人口の減少によって、未婚者の高齢化が進んでいる。加えて、特に女性の高学歴化が進み、10代から20代前半の女性の在学者の割合の増加してきた。さらには、非正規雇用に就業する者の割合も男女ともに増加傾向にある。これらの構造的な変化は、未婚者全体の意識の動向にどの程度影響しているのだろうか。

本研究では、まず男性では第9回調査、女性では第11回調査時の年齢別・調査時点の就業状態別の理想とする女性のライフコースの分布を求めた。この値を基準に、その後の調査時点での意識の変化が、年齢構造と就業状態の変化のみで起きていた場合のシミュレーションを行った。

その結果、未婚男性が理想とする女性のライフコースの分布の変化のほとんどは年齢・就業状態以外の要因によって起きていることが明らかになった。近年の動向は、単に就業状態が不安定な未婚男性割合の増加によるものではないと考えられるだろう。未婚女性については、他の分析結果も交えて当日さらに検討を行う。

参考文献

岩澤美帆 (2999) 「だれが『両立』を断念しているのか—未婚女性によるライフコース予測の分析—」, 『人口問題研究』, 第55号4巻, 16-37 ページ。